

ひなにゃんのやさしい財政教室

『基金編』

- ・基金は市が貯めているお金
- ・3種類に分かれる

1. 「特定目的基金」 市がやりたい事業を行うために貯めているお金

富士市は令和5年度末で、全部で16基金、
総額約78億円を積み立てているわ
毎年、目的にあう事業に基金を使ったり
積み立てたりしているのよ！

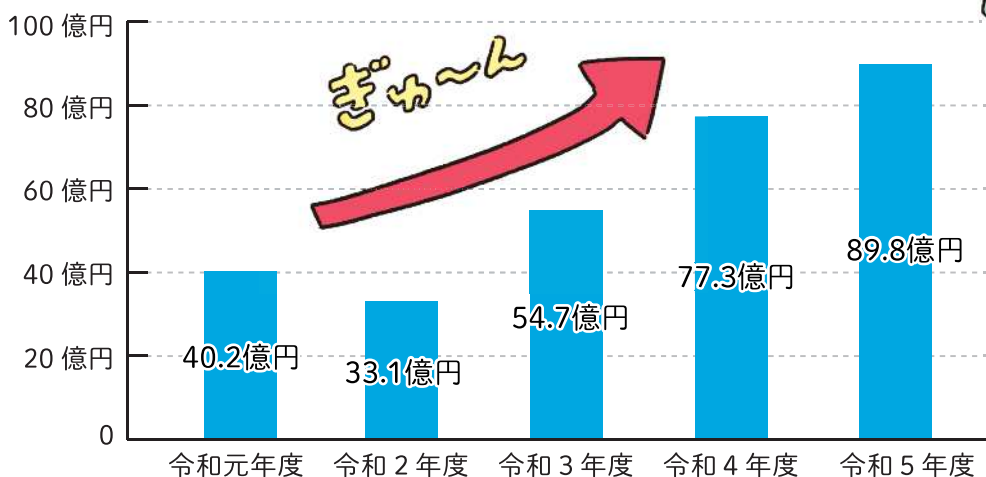


例えば、新病院の
建設のために
積み立てているわ

2. 「財政調整基金」 災害時の対応や一般会計のお金が不足した場合に備えて貯めているお金

令和3年度以降は毎年金額が増えているわね、富士山フロント工業団地の整備に
一時的に活用したり、災害への対応などに備えているのよ

■ 財政調整基金の変化



3. 「定額基金」 毎年決まった額になるように貯めているお金

富士市は土地開発基金を
毎年5億円に設定しているわ



そうすることで使ったお金などの
動きがわかりやすくなるの

ひなにゃんのやさしい財政教室

『財政指標編』

市の財政状況を表す数値

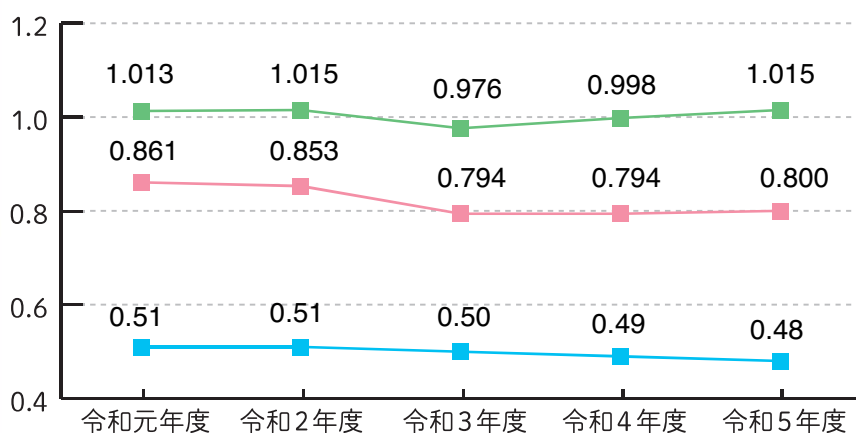
1. 「財政力指数」数値が大きいほど市の財政に余裕があるということ！

指数(数値)が1.0を超えた場合...「普通交付税」という国からのお金がもらえなくなってしまうの！
もらえない団体は「不交付団体」と呼ばれるのよ



富士市は1.0前後で変化しているにや～

■ 財政力指数(単年度)の変化



富士市
県内市平均
全国平均

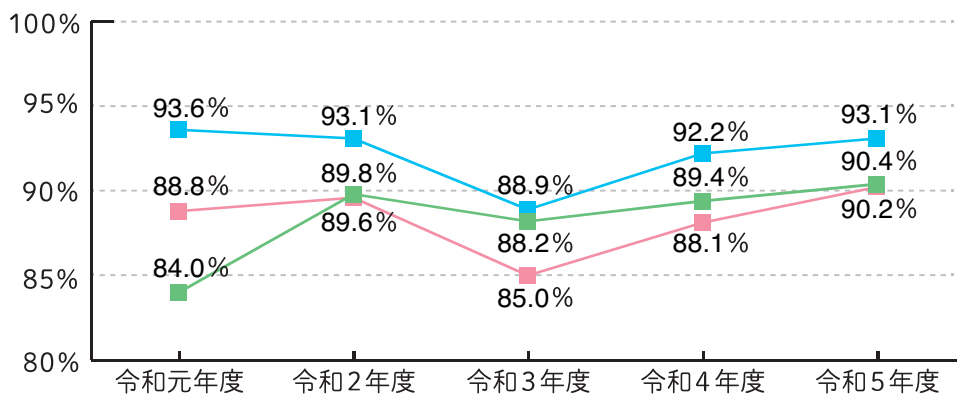
約1700の市町村のうち、
不交付団体は76か所
県内では富士市も
入って4か所なのよ

2. 「経常収支比率」自治体がどのくらい自由に使えるお金を 持っているかを判断する指標なの

数値が低い方が良く、令和5年度は3つの折れ線全てが
90%を超えているから全国的に数値が悪化してるわ



■ 経常収支比率の変化



富士市
県内市平均
全国平均

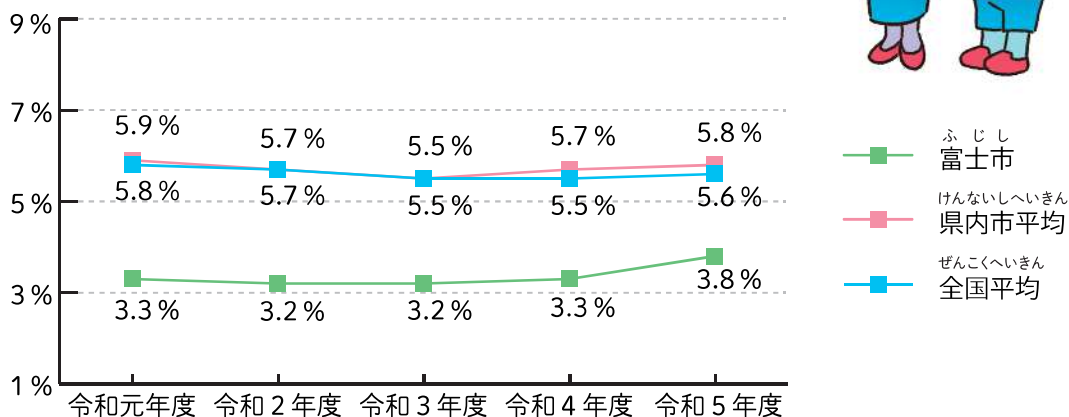
3.「実質公債費比率」

収入のうち、公債費（借金を返すお金）などが
どれくらい含まれているか、という指標よ！

数値が低い方が良くて、富士市は国が定めた基準値を
大きく下回っているからこの数値については安心ね



■ 実質公債費比率の変化

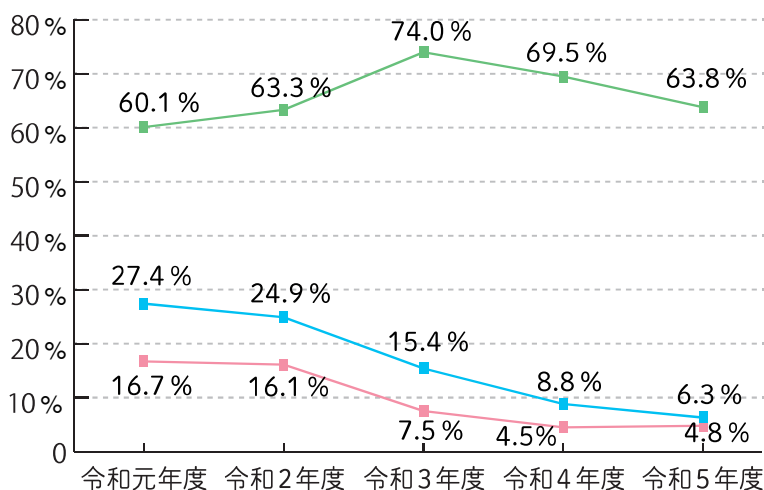


※早期健全化基準25.0%、財政再生基準35.0%（国が定めた基準値）

4.「将来負担比率」

将来の市債（借金）の返済額などが、
市の財政規模のうち何%を占めているか表したもの

■ 将来負担比率の変化



割合が低い方が
将来の負担が小さいので
健全ということなんだけど、
富士市はだいぶ高いわね…



※早期健全化基準350.0%（国が定めた基準値）